

主 題：自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい

聖書箇所：コリント人への手紙第一 6章20節

テーマ：私たちクリスチャンが神の栄光を現すとは

きょうは、“自分のからだをもって神の栄光を現しなさい”ということで、Iコリント6：20の後半のところを一緒に学んでいきたいと思います。前回（2023年10月29日）、Iコリント6：20の前半「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」の部分学びました。きょうはそのことを復習しながら、後半の方に入っていきたいと思います。

### 1. 「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです」 20 a 節

パウロがここで述べている「代価を払って買い取られた」という意味は、あなたがたはイエス・キリストによって贖われたということです。パウロはこの箇所で、イエス・キリストによる「贖い」について述べています。では「贖い」とはどのようなことなのでしょう？それは「代金を払って買い取ること」、また「身代金を払って身受けすること」、そういうことばです。そしてこの「身受けする」ということばは、束縛されている状態、また囚われの状態からの解放を意味しています。ヘンリー・シーセンという神学者は著書の中で「あがないという言葉は、奴隷としてつながれているものを解放するために、第三者が身代金を支払うことを意味している。」と述べています。マタイ20：28には、「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」と書かれています。

そしてその後で「代価を払って」とあります。この「代価」とは主イエス・キリストのいのちでした。そうです、あの十字架の死こそ私たちのために支払われた代価だったのです。ペテロはIペテロ2：24で「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。」と記しています。また、パウロもローマ4：25で、「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され」と述べています。それは私たちの罪の身代わりとしてということです。主イエス・キリストは、私たち罪人の罪のために、あの十字架の上でご自身のいのちを代価としてささげられたのです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。「これが時至ってなされたあかしなのです。」とパウロはIテモテ2：6で述べています。

そしてその後、「買い取られたのです」と書かれてあります。これは不定過去という非常に大切な時制で書かれています。この時制の意味するところは、過去のある時になされた一つの決定的行為を示し、現在もそれが継続していることを表しています。また、この「買い取られた」は受け身で書かれています。そして、ギリシャ語の原文では、この「買い取られた」ということばが20節の文頭にきています。それはこのことばが強調されているということです。パウロはコリントのクリスチャンたちに対して、あなたがたは主によって買い取られ、主のものとなったのです、あなたがたは主の所有物なのだと述べているのです。もちろん私たちもコリントのクリスチャンと同じように、主によって買い取られ、主のものとなったのです。

ですから、パウロは6：19で「あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」、あなた方のうちに聖霊が住まわれていることを知らないのですか、あなた方は知っているでしょう？と述べているのです。この当時のコリントのクリスチャンたちも含めて、私たちはすべて、かつては罪に従っていた罪の奴隷でした。しかし、主によって買い取られた私たちは、神に従う神の奴隷、主イエス・キリストの奴隷となったのです。パウロはそのことをローマ6：16-18に書き記しています。「：16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。：17 神

に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、:18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」、皆さんに覚えていただきたいことばがあります。それはこの「奴隷」ということばです。ギリシャ語の“デューロス”ということばが使われています。このことばは、「奴隷」という意味しか持っていません。パウロが生きていた当時の社会には、実際に奴隷という身分の者たちが多く存在していました。パウロは、ピレモンへの手紙の中で、オネシモという奴隷のことを記しています。またエペソ6：5で、当時、クリスチャンとなった奴隷たちに、「奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。」と勧めています。この奴隷たちは、主人に対して全き服従の者でした。また、彼らは主人の財産であり、所有物だったのです。

パウロ自身も彼が記した手紙の中で、私も主の奴隷であるとあかししています。ローマ1：1、ピリピ1：1、テトス1：1、そこにはこう書かれています。「私はキリストのしもべです」。確かに日本語では「しもべ」と訳されています。しかし、この「しもべ」はギリシャ語の“デューロス”ということばが使われています。ですからパウロは言うのです、「私はキリストの奴隷です」と。パウロだけではありませんでした。ヤコブも、ペテロも、ユダも、ヨハネも自分は主イエス・キリストの奴隷であると、彼らが書いた手紙の中で述べています。私たちも、コリントのクリスチャンたち、またパウロや、ヤコブや、ペテロや、ユダや、ヨハネと同じように、主イエス・キリストの奴隷となった者です。

また、私たちは神の子どもとされる特権をも与えられました。ヨハネ1：12には、「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」と記されています。その「神の子ども」たちに対しても、みことばは神にならう者になりなさい。主イエス・キリストの模範に従う者となりなさい、このように教えています。

## 2. 「ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」 20b節

そして、きょう学ぼうとしている20節の後半に入ります。後半はこう書かれています。「ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」これは、主イエス・キリストの奴隷、また神の子どもとされたクリスチャンたちに対する命令です。この「現しなさい」は能動態の命令形で書かれています。それは、自分の意思をもって、積極的に神の栄光を現していくということです。きょうはこの後半の部分を皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。もう一度6：20をお読みします。

### Iコリント6：20

「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」

後半は前半部を受けて、「ですから」と始まっています。それは「そういうわけだから」、「それゆえに」という意味です。そして「自分のからだ」とあります。これは私たちの外側の肉体だけではなく、私たちの内側、こころとか霊の部分をも含めた私たちの人格すべてを表しています。19節で、私たちのうちには聖霊が住まわれており、私たちのからだは「聖霊の宮」だと書かれてありました。ですから、私たちクリスチャンは、この真理と一致したこころの思い、また行いをしなければならないということです。そして次に記されていることばは、「神の栄光」です。この「栄光」ということばのヘブル語の本来の意味は、「重い」です。具体的にこの「神の栄光」とは、神が神であるがゆえに持つ尊厳、卓越性、完全性を表しているのです。

### 1) 旧約において

旧約においては多くの箇所での「神の栄光」が語られています。詩篇19：1では、「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。」。そして出エジプト24：16-17には、こう書かれています。「:16 【主】の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。:17 【主】の栄光は、イスラエル人の目には、山の頂で燃え上がる火のように見えた。」と。旧約ではもっと多くの箇所での「神の栄光」、主の栄光について教えられています。

## 2) 新約において

新訳においては、この「神の栄光」は主イエス・キリストと結びついています。ヨハネ1：14では、「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」、こうヨハネは語っています。また、ヘブルの記者はヘブル1：3で、「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり」と述べています。

さて、皆さん、本当に私たちは神の栄光を現すことができるのでしょうか？人知を超えたその尊厳、卓越性、完全性なる神の栄光を、不完全な私たち人間がこれをすべて完璧に現すことができるのでしょうか？皆さんはどう思われますか？答えは「できません」です。なぜなら、私たち人間はすべてにおいて有限です。無限な方である神の前では無に等しいものです。ではなぜみことばは、神の栄光を現しなさいと記しているのでしょうか？それは、私たち人間に対する神のみわざを通して、私たちに及んだ救いのみわざから神の栄光、神のすばらしさを現すことが可能だからです。神によって買い取られた者として、神によって救いの恵みが注がれた者として、神との和解が与えられ、神との正しい関係に導かれた者として、私たちは神の栄光を現すことができます。

この「現しなさい」、現すということばを国語辞書で引いてみますと、こう書かれていました。「なかったもの、隠されているものを見えるようにする」、あるいは「こころの中にあるものを表現する」、そういう説明がなされていました。それでは、具体的に私たちが神の栄光を現すとは、どのようなことなのでしょう？それは主イエス・キリストによって買い取られた者として、買い取ってくださった主人のすばらしさを現すことであり、私たちが召された者として、神のご性質を現す生き方をすることであるとみことばは教えています。Iテサロニケ2：11-12にこうあります。「:11 ……私たちは父がその子どもに対してするように、あなたがたひとりひとりに、:12 ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。」。またパウロは、エペソ4：1で「主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」と述べています。

### ◎神の栄光を現す生き方

私たちは、私たちの生き方によって神の栄光を現すことが可能です。私たちはきょう三つのことを考えてみたいと思います。

#### ① 私たちが聖く生きる

一つ目は、私たちが聖く生きるということです。Iペテロ1：15に「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。」と、ペテロは勧めています。またIテサロニケ4：3では、パウロが「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。」と述べています。神はすべての悪と罪から完全に分離されている方であり、また悪と罪とを徹底的に憎むお方です。私たちはこの神の聖さを基準かつ目標にして聖化の道を歩むようにと求められています。Iテサロニケ4：7-8に「:7 神が私たちを召されたのは、汚れを行わせるためではなく、聖潔を得させるためです。:8 ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたに聖霊をお与えになる神を拒むのです。」とあります。ここでパウロは、私たちが悪い思いや考えを持ったり、また罪の中にある時、それは神の栄光、神のすばらしさを現しているのではなくて、神を拒んでいるのですと、こう教えています。まず、私たちは聖く生きること、それを通して神の栄光を現すことが可能です。

#### ② 私たちが正しく生きる

二つ目は、私たちが正しく生きるということです。エレミヤ9：24「誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは【主】であって、地に恵みと公義と正義を行う者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ。」、こう書かれています。また、Iヨハネ3：9-10には「:9 だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。:10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別が

はっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」とあります。まことと偽り、善と悪、正義と不正、そして神と悪魔は両立し得ない対極にあります。私たちが義の中に、正しさの中にいる時には、確かに私たちは悪の中にはいません。それは私たちが正しく生きること、神の喜ばれる生き方を実践することを通して、神のすばらしさを現しているのです。私たちの正しい人生の実は、確かに神の栄光を現す、そのような実となっているのです。

### ③ 愛

そして三つ目は愛です。神がご自身の愛を決定的な形で私たちに明らかにされました。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」、皆さんよくご存じのヨハネ3：16です。また、先ほど見たIヨハネ4：7-10にはこう書かれています。「：7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。：8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。：9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。：10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」。神の愛、それはアガペーの愛、自己犠牲の愛です。～にもかかわらずの愛であり、分かち与える愛です。ルターはこの愛を「泉のように吹き出し、あふれゆく愛」と表現しています。神の命令は、私たちが愛に根差し、愛を実践していくことです。私たちが互いに愛し合うことを通して神の栄光、神のすばらしさを現すことができるのです。

今お読みしましたIヨハネ4：11にはこう書かれています。「愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」、私たちが私たちの生き方を通して、神の栄光、神のすばらしさを現していくことができるのです。それは罪から離れた聖い生き方を通して、また悪から離れた正しい生き方を通して、そしてすべてにおいて愛を動機とする生き方を通して、確かに私たちが神の栄光を現していくことが可能なのです。

### 3. どのような時に神の栄光を現すことが可能なのか

それでは、私たちの生活の中で、どのような時にそのことが可能なのでしょうか？私たちがこの神の栄光、神のすばらしさを現す時、何か条件が伴うのでしょうか？「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」、Iコリント10：31です。私たちが実際の生活の中でのさまざまな行いの中において、神のすばらしさを現すことは可能なのです。私たちが召された者として生活するその行動は、教会の中にいる時だけではありません。普段の生活の中にあっても、いつも、すべての時に神の栄光を現すことが求められているのです。

それでは私たちは、自分の力でこの神の栄光、神のすばらしさを現すことができるのでしょうか？それを可能にしてくださるのは、うちに住まわれる聖霊の働きです。ですから、パウロはこの6：19で、聖霊が住まわれていることを強く主張しているのです。聖霊は私たちを聖い生活に、正しい生活に、そして愛にあふれたことばや行いに導いてくださるのです。ガラテヤ5：16には、「……御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」、こう書かれています。「御霊によって歩みなさい」とは、御霊に支配されて、御霊に従って、御霊に満たされて生活しなさいということなのです。このみことばは、私たちが神の栄光を現すための生き方を私たちに明らかにしています。

### ●神の栄光を現さない否定的な面

またパウロはこのIコリント6：18で、私たちが神の栄光を現さない、否定的な面をも私たちに教えています。それは、「不品行を避けなさい」です。この「避けなさい」は、現在形の命令で書かれています。だから不品行を避け続けなさい、あるいは不品行を避けるのを習慣としなさいという意味です。そしてこの「不品行」とは、私たちの内側にある性的な欲望、性的な罪、肉の欲望です。私たちがこの不品行と

妥協してはいけません。それを考えることから離れなければならないのです。不品行を行っている者はだれでも、神の栄光を現す者ではありません。

#### 4. まとめ

##### 1) 6章20節後半

私たちはきょうこのIコリント6:20の後半を見てきました。キリスト者は自分の全人格をもって、また生活の全領域で、神のご性質である聖、義、愛にあふれた信仰生活を送ることを求められています。それはまさに自分のからだを通して、神の栄光、神のすばらしさを現すことであり、また、その私たちの歩みが周りの人々に神の栄光、神のすばらしさをあかしすることになるのです。「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:16)。私たちクリスチャンの責任の最も重要なことは、自分個人における魅力的な目的を達成すること、目指すのではなくて、神の栄光、神がほめたたえられることを求めることです。神は私たちを礼拝者として、ご自身の前に立つ者とされました。私たちはこの礼拝を通して、神の栄光を現すことができるのです。

##### 2) 6章20節全体を通して

私たちは2回にわたって、このIコリント6:20を学んできました。罪の奴隷から、神の奴隷、主イエス・キリストの奴隷となった私たちクリスチャンは、主に対して、すべてのことにおいて従う者とされました。そして、私たちの全人格をもって、また生活の全領域で、私たちの生涯を通して、主人である主イエス・キリストの栄光を現すことを目指さなければならないということです。そしてそのことが私たちクリスチャンの喜びのすべてとならなければならないということです。神のみことばに従い、主に祈り、聖霊の助けによって私たちは主イエス・キリストの奴隷としての働きをともに果たしていきたい、このように願っています。

J・I・パッカーという神学者は、彼の著書の中でこう述べています。最後にそれを読んできょうのメッセージを終わりたいと思います。「神の栄光は、神が罪人を救う恵みの計画とわざの中に表されており、賛美を引き起こすものである。生活の全ての活動も、神に敬意と栄誉と喜びをささげるという目的を持って、つまり実践的レベルで神に栄光を帰すという目的を持って取り組まなければならない。」と教えてくれています。皆さん、私たちは神の栄光を現すことができるのです。それは私たちのこの人生を通して、聖く生きること、正しく生きること、神の愛を私たちがしっかりとこころのうちに根差して、私たちの全生涯を通して神の栄光を現していきましょう。